

夏休み！ノーテレビ・ノーゲームデーチャレンジ大作戦 アンケート調査の結果について

1 夏休み！ノーテレビ・ノーゲームデーチャレンジ大作戦について

夏休み期間中に1週間ごとに2日間（合計12日間）、家庭においてノーテレビ・ノーゲームデーに取り組むことを通して、子どもたちに規則正しい生活のリズムや基本的な生活習慣などを身に付けさせるとともに家庭でのコミュニケーションの促進を図ることを目指し、県内小学3年生を対象に実施しました。児童は、チャレンジカードをもとに、チャレンジする日を1週間ごとに2日間設定し、テレビを見ない（ゲームをしない）で「頑張ること」を決めてノーテレビ・ノーゲームデーにチャレンジしました。

※県内小学校204校（県内全小学校の96.7%）、特別支援学校3校で実施

2 アンケート調査について

実施校ごとに小学3年生児童・保護者の10%程度を抽出し、児童には、取り組んだ日数、取組の状況などについて、保護者には、児童の生活の変化などについてアンケート調査を実施しました。

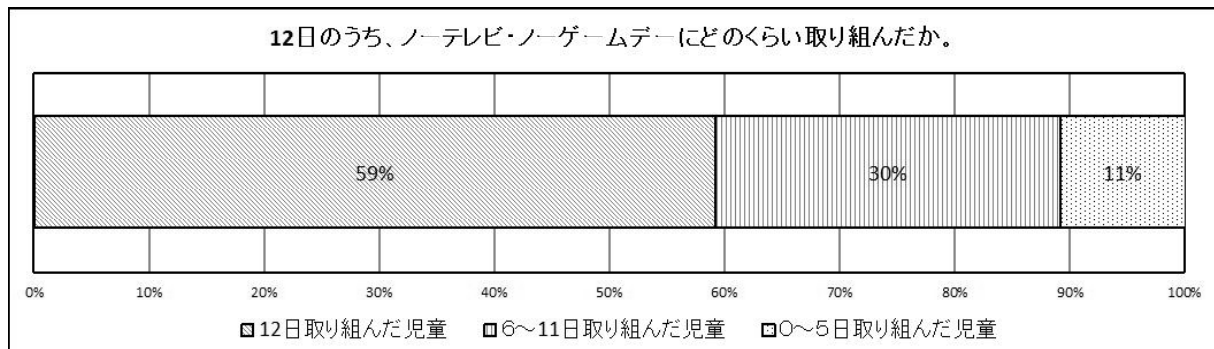
アンケート回答数	1352（実施校小学3年生の11.1%）
アンケート実施期間	平成24年9月3日～平成24年9月7日

3 アンケート調査結果の分析について

▶児童の状況

(1) アンケートに回答した児童の状況

約60パーセントの児童が週2日のノーテレビ・ノーゲームデーに取り組んだ。
（※約90パーセントの児童が週1回以上取り組んだ。）

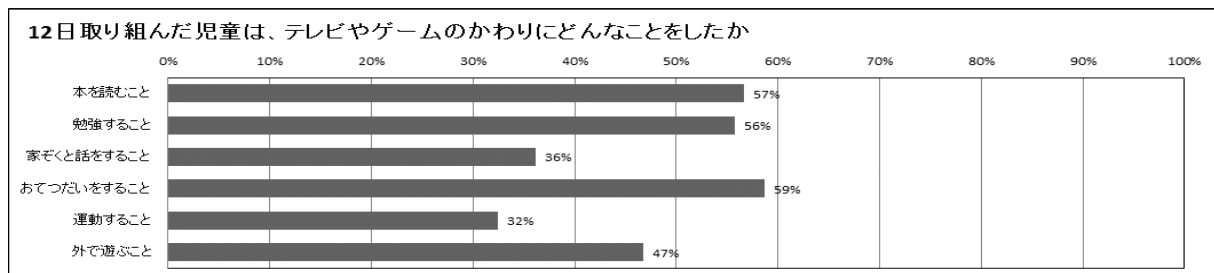


◆平成23年度と比べ、週2日取り組んだ児童の割合は9ポイント（H23 50%→H24 59%）上昇。週1日以上取り組んだ児童の割合は4ポイント（H23 85%→H24 89%）上昇。

(2) 12日（週2日）取り組んだ児童の状況

テレビやゲームのかわりにしたこととして、①お手伝い、②読書、③勉強、④外遊びの順に多く、①～③は半数以上の児童が取り組んだ。

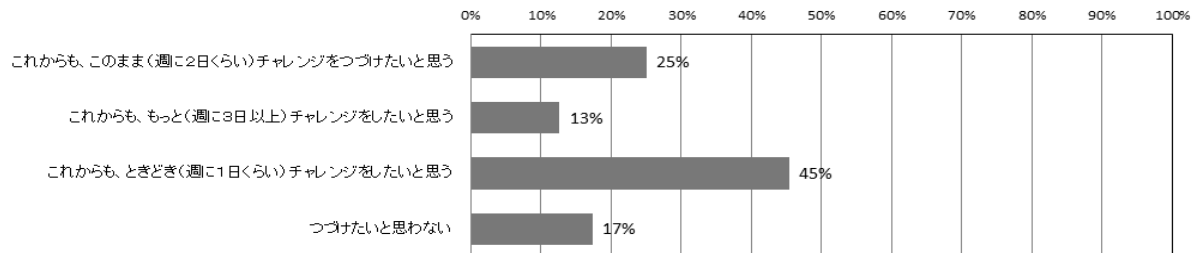
（複数回答）



◆テレビやゲームのかわりに児童がしたことは、平成23年度と同様、①お手伝い、②読書、③勉強であった。また、④外遊びをした児童の割合は6ポイント（H23 41%→H24 47%）上昇。

83パーセントの児童が今後もチャレンジしたいと肯定的に考えている。

12日取り組んだ児童は、ノーテレビ・ノーゲームデーのチャレンジをつづけたいと思っているか



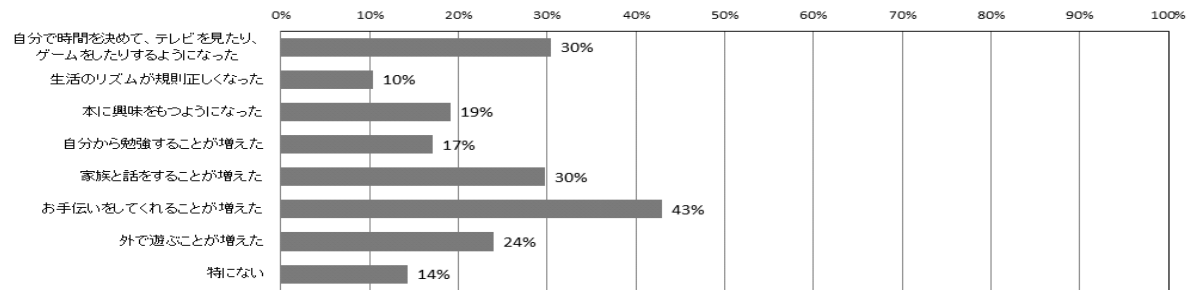
▶保護者の意見

12日（週2日）取り組んだ児童の保護者の取組についての意見

取組により児童の生活に見られた変化についての意見は、
 ①お手伝いをしてあげることが増えた。
 ②自分で時間を決めて、テレビを見たり、ゲームをしたりするようになった。
 ③家族と話をすることが増えた。
 の順に多い。

(複数回答)

12日取り組んだ子どもの生活の変化



◆昨年度と比較して、子どもがお手伝いをしたり（H23 40%→H24 43%）、家族と話をししたり（H23 26%→H24 30%）することが増えたと感じている保護者が増加。

91パーセントの保護者が今後も週に1日以上チャレンジしたいと思っている。

12日取り組んだ子どもの保護者は、ノーテレビ・ノーゲームデーのチャレンジをつづけたいと思っているか

